

北海道旅行から学んだこと

音羽中・1 磯部 千晴

私は、今まで行った旅行の中で北海道に行ったことが一番心に残っています。それまでは、旅行とは思いつきり遊んで楽しむものだと思っていました。でも、北海道へ行ったことで旅行から学べることもあると気づき、旅行の見方が変わりました。

私が北海道に行ったのは去年の夏です。初めは思いつきり楽しもう、満喫しようとそのことだけで頭がいっぱいでした。北海道へはフェリーで行きました。フェリーに乗ってから三十分くらいすると、海に白い大きな物が浮かんでいるのが見えました。不思議に思っよく見てみると、それは発泡スチロールでできた大きな箱でした。

私は、今までテレビなどのニュースや教科書などでしか海中のゴミを見たことがありませんでした。しかし、実際にゴミを見て心配になりました。その後も途中で何回かビニール袋や大きなバケツなどを見ました。驚いたのはフェリーの通るような場所に落ちていたことです。フェリーの航路は陸からとても離れています。それなのにあれほど大きなゴミが陸からここまで流れてくるのだと驚きました。あのゴミはきつと動物たちに悪い影響を与えていると思いました。

北海道では、動物たちとふれ合ったり、体験をしたりすることができました。一つ目は牧場での乳しぼり体験です。牧場の方にやり方を教わり、人指し指と親指から中指、小指というようにしぼっていききました。初めての体験だったので上手にできるか不安だったけれど、牛がずっと優しい目をしていてことからぬくもりを感じることもできました。その温かさから生命の尊さを学びました。

二つ目は乗馬体験です。ブラシがけから始めて自分が乗る馬となれていききました。練習場まで馬を誘導するときにはわくわくしていま

した。方向転換や前進、止まる、走るなどの合図を教わりました。自分の指示が伝わり、思い通りに動いてくれたときは、馬と一体になれた気がしてうれしかったです。

次の体験は気球です。乗り場に行くと思ったよりも大きくて迫力がありました。一番上まで行くと自分の居た場所が小さく見えしました。今まで自分が見ていた世界はとても小さいものだ気づきました。

次は青のどうくつクルーズです。クルーズは海の上を走るジェットコースターのようでした。どうくつの中はちようど船が通れるくらいのもので、自然が作り出したとは思えません。どうくつの中の海の色はすき通ったエメラルドグリーンでも神秘的でした。普段はあまりできないたくさんの体験ができてよかったです。

その中でも一番楽しみにしていた知床に行く日になりました。知床でトイレに行こうとすると、トイレのドアにクマの悲しい事件のことが書かれている紙がはってありました。それは次のような内容でした。

知床の森の中に一頭の野生のクマが住んでいました。ある日、知床を訪れた一人の観光客がそのクマにソーセイジを一本あげました。それ以来、クマはソーセイジを求め毎日道路を飛び出してくるようになりました。だんだんとひどくなり、ついには人間の住む町の方まで来るようになりました。その結果、クマを駆除することになってしまったということです。観光客がよかれと思っあげたソーセイジ一本がクマの命を失わせることになってしまったのです。この出来事を読んだとき私は心が痛みました。このことをお母さんに伝えると、

「お母さんの行ったトイレにもはってあったよ」

と言われました。トイレに一枚ずつはってあるということは、多くの人に知ってもらいたい出来事なのだろうと思いました。

この出来事から、私たち人間の都合で何も悪くない動物が危険な

目にあっていたり、殺されてしまったりしているとわかりました。

北海道は、とてもきれいで感動するような景色ばかりでした。例えば、道路がとても広かったり、一面ずっと緑でどこに行っても緑があり、空気がとてもきれいでした。規模が大きく、「自然」を感じることができました。

北海道では北海道でしか見られない動物や絶滅危惧種になっている動物など、貴重な動物が生息しています。だから私は、この貴重な景色や動物をなくしてほしくないと思えます。そして、すばらしい景色や動物をもっと多くの人に見てほしいと思っています。

帰りのフェリーでは夜のため暗く、行きと航路が違っていたので水中がよく分かりませんが、きつとたくさんのゴミが落ちていたと予想します。私だけではどうすることもできないかもしれないなけれど、多くの人が私と似たような思いをもっていると思えます。動物が人間の都合で殺されなくなり、逆に保護しようと今よりもっと多くの人が協力できればよいと思えます。そうすれば貴重な景色や動物がもっと身近で見られるようになると思えます。今までより、よい環境が生まれ、自然の恵みが得られると思えます。今回の経験から、人と自然と動物が共存できる未来を望みます。

また北海道に行く機会があれば、次は飛行機で行きたいです。それは、フェリーで学びがあったので飛行機でも新しい発見が見つかるだろうと思ったからです。心を動かす出来事があるかもしれない。まだ行っていない場所やもう一度行きたいところを周って、もっと学びたいです。ただ学んで終わりではなく、学びを深め、地域の清掃活動や動物保護の募金など実際に行動に移し、少しでも国や世界に貢献したいと思いました。